



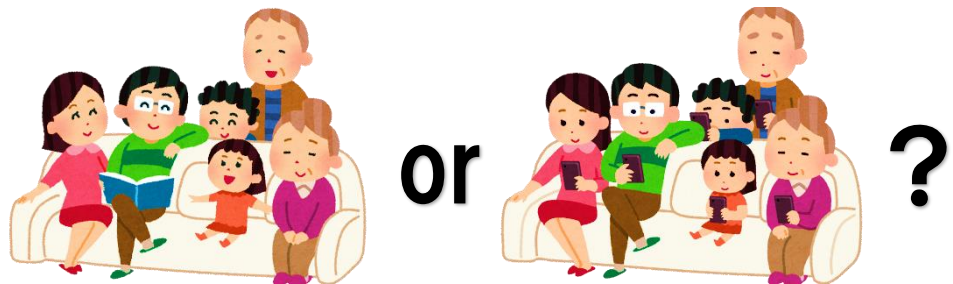
## 家族の時間を大切に

「えぐ!」「すご!」「うま!」「きも!」子どもたちの日常語には、2語の短縮言葉が多くあります。小学生のみならず街中で聞こえてくる高校生・大学生の会話であっても、「えぐ!」の連発で会話が成立している場面をよく目にします。例えば、おいしいものを食べたとき、想像以上にすばらしい出来事またはその逆の出来事があった時、相手のすごい偉業をたたえるときなどです。最近の出来事でいえば、大谷翔平選手の入団契約金のニュースを視聴した時、「えぐ!!!!」と第一声を発した人は多いと思います。そのような、若者言葉を昭和の時代であれば批判するのが大人でしたが、今は逆輸入的に大人も便乗して日常的に使うことは少なくありません。そう考えてみると、子どもたちの生活環境で、新しい言葉や正しい表現を聞いて語彙を増やす機会は昔に比べて激減していることでしょう。

時計会社のシティズンが1週間の生活時間を調査した結果には、『テレビの視聴時間』、『読書(新聞、雑誌、本など)』、『スポーツ・運動の時間』、『家族との会話』は、ここ30年で3時間~6時間減少したとあります。しかし、注目すべき結果は、昔に比べて『子どもと過ごす時間』は約40分増えたというのです。この結果の実際は、家族との会話が減った時間(平均3時間半)が、スマホやゲーム機を扱う時間に置き換わったといえます。

私たちの生活では、デジタル機器がなくてはならないツールになっています。特にスマホは、生活の仕方を左右する生活必需品となっています。しかし、大人になってから使い始めた保護者世代とちがい、生まれたときからスマホやゲーム機が当たり前にある子ども世代は、心のブレーキが未熟なまま使う頻度や時間が次第に増加し、知らず知らずのうちにその依存度が高まっています。

冬休みは、年末年始の休みで大人も『おうち時間』が増えることと思います。せっかくの家族団らんの時間を、デジタルではなくアナログにもどして、会話を楽しんでもらえたらうれしく思います。



## 気がつけば150年? !(^^)!

ある朝、日課の立哨をしていて、ふと正門横にある石碑に目をやると、「創立百周年記念碑」と刻まれていました。毎日立哨してあまり気にしていませんでしたが、渋野小学校も100年以上の歴史があるのかと思い、石碑の裏に回ってみると、この石碑は昭和48(1973年)に設置されたものでした。では、今年度で何周年になるのかと計算してみると創立150周年ということになります。しかし、記憶をたどると今年の入学式は『第37回』でした。消えた113年はどこにいったのか?もしかしたら、校長として150周年記念式典を計画しなければならなかったのではないかと...そしたら新たな記念碑を準備しなければならなかったのではないかと...いろいろなことが頭を駆け巡りました。

日本にある学校の歴史は、明治5年に作られた日本最初の近代的学校制度を定めた教育法令「学制」から始まっています。従って、当時からある日本の多くの学校は今年で150周年を迎え、記念誌や式典の準備に忙しくしている校長は全国至る所にいることでしょう。しかし、安心してください!!渋野小学校は、昭和61年(1986年)に、今のところに新設されたことにより、創立記念日がリセットされたのです。そのおかげで、今年も静かに年を越せることになりました。

